

平成23年度 学校評価・学校関係者評価

赤穂市立赤穂中学校

1 本年度の学校経営方針

◆学校教育目標「心身ともに健康で、人間性豊かな生徒の育成」
○基本方針：喜びを分かちあい、困難を支え合う教師集団が結束し、学校課題の解決にあたる。

目指す学校像	目指す生徒像	目指す教師像
(1) 行(生)きたくなる学校 ～安全、安心、自信～	(1) 授業や部活動に一生懸命頑張る生徒	『楽しく、優しく、元気で、 粘り強い教師』
(2) 学力を培う学校 ～他の命の尊重～	(2) 気づき、考え、実行する生徒	(1) 教育公務員としての自覚と責任をもち、信頼される教師
(3) 自主・自立を促す学校 ～気づき・考え・実行する～	(3) 仲間を信頼し大切に、思いやりのある生徒	(2) 生徒とともに汗する教師
(4) 規律ある学校 ～秩序ある美しいヘルスロード～	(4) 人・命の重みがわかる人格感覚をもつ生徒	(3) 研修に努め、豊かな人間性と教育愛に満ち、活力のある教師
(5) 感動のある学校 ～涙の出る感性、涙の出る連帯～	(5) 明るく元気に、あいさつや返事ができる生徒	(4) わかる、楽しい授業を実践する教師
(6) 連携する学校 ～保護者・地域・関係機関・外部の教育力～	(6) 心を磨く清掃・ボランティア活動に取り組む生徒	(5) 気づき、考え、変革する教師
	(7) ヘルメットを被る生徒	(6) 組織の一員として、協働して取り組む教師

総合的な学校関係者評価

○前年度の結果と比較し、好転したものが下降したもの、その理由を明確にして改善をお願いしたい。

○各項目に対し、目標とする数値をどう設定するのか、設定に到達しなかった項目になぜ到達しなかったのか分析し、課題を明確にして改善策を検討してほしい。

○学校経営方針に沿って、ますます学校像・生徒像・教師像がすばらしいものになるよう望む。見える学校であって欲しい。

○評価は、教師自身の実績・経験の多少によって違ってくる。今回の評価は、概ね「良し」といえる。学校・生徒・保護者・地域・部活と授業だけでなく教師の苦勞は大変だが、職員・丸となった指導の成果と考えられる。

○生徒に対する指導・教職員間の協力など、良く努力されていると思います。個々の部分では問題もあると思いますが、全体的には改善がうまく成功されていると思われます。更に地域・親と連携を取りながら進めていければと思います。

○勉強が嫌いでも喜んで毎日登校した。けがで悩んだ時は、たくさん先生に声をかけてもらい励まされた。問題行動は、学年の問題と捉え、じっくりと取り組んでくれた。

3 自己評価結果 (A～D) A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

◆学習指導
本年度の学校努力目標
○成就感や達成感を味わわせながら基礎基本の定着を図る、「楽しく・わかる授業」づくりに努める。
○「授業が最大の生徒指導である」の視点に立ち、授業研究や校内研修に対する意欲を高め、実践への気運を高める。

NO	評価項目	A	B	C	D
1	一人一人を大切に学習指導に努めている。	43%	57%	0%	0%
2	各教科において、基礎・基本を明確にし、指導内容や教材の精選・工夫を行っている。	39%	61%	0%	0%
3	授業内容・指導方法・学習形態等の工夫や改善を行っている。	25%	71%	4%	0%
4	思考力や表現力を高める、問題解決的な学習指導を行っている。	21%	64%	14%	0%
5	到達度の低い生徒への対処を課題と捉えて取り組んでいる。	25%	57%	18%	0%
6	到達度の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫している。	14%	57%	29%	0%
7	信頼性のある、客観性の高い観点別評価づくりを行っている。	32%	61%	7%	0%
8	新学習指導要領の完全実施を踏まえ、各教科・領域の新学習指導要領の特徴や内容を理解している。	21%	54%	25%	0%
9	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	14%	46%	36%	4%
10	教員の間で、授業方法等について検討する機会を持っている。	7%	68%	25%	0%

分析と改善の方策

◆学習指導

○過去2年間を比べて伸びた項目
※ (後進が認められる項目はなし)

1	(A評価)	24%	33%	→	43%
4	(A+B)	70%	77%	→	85%
9	(A+B)	32%	29%	→	50%
10	(A+B)	41%	50%	→	75%

○生徒アンケート
「授業は分かりやすい」→77%

○保護者アンケート
「内容が楽しく分かりやすい授業が多いようだ」→60%

○学校の公的な責任の中核にあるのが、『授業づくり』である。一定の取り組みはなされているが、不登校や生徒指導面の課題を持つ生徒の一因に低学力があるということにも痛みを感じる教師でなければならない。教科の授業研究を組織的に進めたい。

○若手教員の増加もあり、[9・10]についても機運が高まっている。好機と捉え、より組織的な取り組みにつなぎ実践を図りたい。

学校関係者評価

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

自己評価は適切か	改善方法は適切か	課題と提言
◎	◎	10 教員間にファミリートレーニングを実施し色々な課題と対策を共有してはどうでしょう。
◎	◎	
◎	◎	
◎	○	1-3 C・Dがほぼ0%である。子どもが家で授業の内容について話してくれることも多く、それだけ楽しい授業だったんだなあと感じることが多かった。
○	○	9-10については大変な進捗と思われます。今、学校が何をしようとしているのかが、表われていると思います。若手の育成は全ての組織に於いても非常に重要、このムードを大事にしてください。
○	○	教員間でお互いに検討などをし、機会を増やしている面は評価できると思います。

◆生徒指導						
本年度の学校努力目標						
○生徒との信頼関係を土台とした、優しさや厳しさのある支援に努める。 ○「報告・連絡・相談」の風土のある職員室づくりに努める。 ○「不登校」や「いじめ」の防止や解消のための、早期発見や早期対応に努める。 ○清掃指導、服装指導、あいさつ指導等に、教職員一致協力してあたるとともに、校務分掌間の適切な連携を図りながら取り組みの充実を図る。 ○事故や事件は起こるものとの前提で、常に危機意識を高く保つ。						
11	生徒一人一人の特性を多面的に把握し、心のきずなを深める内面的理解に基づいた指導や支援をしている。	29%	64%	7%	0%	
12	親しみと馴れ合いの区別を付け、一定の緊張感ある言葉のやり取りをしている。	39%	43%	18%	0%	
13	生徒の問題行動に対して組織的に対応できる体制が整っている。	32%	64%	4%	0%	
14	様々な問題行動を防止するための早期指導に、学校全体で取り組んでいる。	25%	75%	0%	0%	
15	家庭や地域、関係機関との連携を密にした指導ができています。	18%	68%	14%	0%	
16	校務分掌間で連携して、清掃・挨拶・服装などの指導によく取り組んでいる。	18%	57%	21%	4%	
17	生徒の基本的な生活習慣は向上している。					
	①授業の態度・意欲	36%	57%	7%	0%	
	②登校時・下校時・授業前後等	36%	64%	0%	0%	
	③下校のマナー	36%	57%	7%	0%	
	④命を守るヘルメットの着用	46%	54%	0%	0%	
	⑤遅刻	21%	68%	11%	0%	
	⑥集会（学年・全校・行事練習）	32%	68%	0%	0%	
	⑦清掃	14%	39%	46%	0%	
18	学級活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。	25%	61%	14%	0%	

分析と改善の方策	
◆生徒指導	
○過去2年間を比べて伸びた項目 ※（後退が認められる項目はなし）	
12	(A評価 73% 72% → 82%)
14	(A+B 58% 76% → 86%)
16	(A+B 60% → 75%)
○やや後退気味の項目	
18	(A+B 76% 96% → 86%)
○11～17とも過去2年間を比べてさらに好転している。	
事象にある背後の要因を踏まえたうえで、生徒個々の内面に迫る指導を継続したい。ペースとなる教師と生徒・家庭との信頼関係でつながるためには、教師一人一人の取り組みや資質に頼むのではなく、今以上に教師集団としての取り組みが望まれる。	
○基本的な生活習慣については、本校の現状を表した数字となっている。個々の教師、あるいは教師集団の努力の結果と受け止めたい。但し、教師の側の優心や無関心がないよう、継続して粘り強く取り組み学校の文化に高めたい。	
○生徒の清掃取り組みも良くなっているが、まだまだ高まりには至っていない。清掃に向かう心の耕しを図ると同時に、手立てや仕掛けを構える必要がある。	
○〔18〕については、学級担任任せになっている学級経営になっていないかを反省したい。	
○不登校の数は減ったが、本校の課題である。引き続き家庭との連携を密にし、関係機関との連携やSSR教室の充実など、登校に向けたエネルギーづくりに努める。日頃から生徒が話題になり、不登校の兆しのサインを迅速に対応する教師集団づくりに努める。	

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と提言
◎	○	17-④登校時のマナーについての評価は甘いと考えます。部活下校時は一般道にはみ出しているのをよく見かける。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・服装、白靴等以前より良くなったのは、先生方の粘り強い指導のおかげです。 ・卒業式が全員出席だったことは誇らしいことです。 ・子どもは「一生懸命取り組むことの素晴らしさ」を教えてもらった。行事を通して努力する楽しさを学んだように思う。 ・問題行動の対処も一方的な叱りではなく、一人一人の話をよく聞いて下さり、じっくり時間をかけて向き合って下さいました。 17あいさつ・時間厳守など、基本的な生活習慣の向上を図る活動をお願いしたい。その上で、なぜだめなのか、なぜ必要なのか、しつこく訴え、モラル・マナー・規範意識が向上すれば大人も子どもも変われると思う。
◎	◎	
◎	◎	
○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・先生と生徒、先輩と後輩、親しみのあるのはいいが、やはり一定のけじめある関係が望ましい。親しみの中に厳しさも必要。生徒個々にはさほど問題がなくても、集団となった時に問題行動が起きることもあります。注意が必要かと思えます。

◆ 特別活動 ◆ 人権教育						分析と改善の方策		自己評価は適切か		改善方法は適切か		課題と提言			
◆ 特別活動 ◆ 人権教育 本年度の学校努力目標 ○違いを認め合い、仲間を大切にしたいという思いやりのある集団づくりを進める。 ○集団の自律能力を育成する視点に立ち、「気づき・考え・実行する」生徒会活動を全教職員で支援する。 ○部活動の教育的役割の重要性を理解を深め、心身の健全な発達を促す適切な部活動の充実に努める。 ○“人が人をつくる、環境が人をつくる”の視点に立って、人権教育を基盤とした教育活動を展開する。 ○心安らぐ学習環境づくりを図る。 ～ 掲示教育の充実 ～															
19	互いの違いを認め合い、共に支え合う集団づくりを実践している。	18%	75%	7%	0%		0%	◎	◎	○全般的に上昇傾向だが、大きな変化にはなっていない。 ○〔26〕については大きく伸長した。学校が明るくなった。生徒の顔が浮かぶ掲示があり、生徒が歓声を上げる。小さな変化を承認し評価することで、人権的な視点で生徒の生活の質の向上につながる環境整備をさらに進めたい。 ○集団を「束ねる」力は重要である。束にならない集団に高い目標の達成はない。「束ねる」ことの達成から「つながって高め合う」質の高い集団に向かうために、まず、個を育て、その子が集まって集団を形成するという筋道を間違えてはいけない。 ○生徒会活動の重要性も大きい。教師が仕掛けて、生徒自らが「自分たちでやった」という達成感や達成感のある生徒会活動を、教師集団全員で支えて行く必要がある。 ○学級の支持的雰囲気や仲間を伸ばす心の教育の充実に努める。 ○道徳授業は、昨年度の高まりを具体点に日々の授業実践につなぐ必要がある。校内研修を重ねていく。					
20	集団づくりで埋もれがちな個性や違いを大切にし、一人一人が輝く実践をしている。	18%	75%	7%	0%		0%	◎							
21	魅力ある学校行事となるよう、工夫や改善を行っている。	29%	61%	11%	0%		0%	◎							
22	生徒が主体的に活動する生徒会活動となるよう、学校全体で支援している。	36%	61%	4%	0%		0%	◎							
23	JRC活動を推進する適切な指導や支援を通して、奉仕の精神を養いボランティア活動への意欲や態度を養っている。	36%	50%	14%	0%		0%	◎							
24	生徒が個々の能力に応じて達成感を得られるよう、部活動の活性化に努めている。	46%	54%	0%	0%		0%	◎							
25	教育活動全体を通して規範意識を高め、道徳性を涵養する指導や支援を行っている。	25%	68%	7%	0%		0%	◎							
26	教室環境、校内環境、校内掲示、学校関係、校外環境の改善が図れている。	18%	75%	7%	0%		0%	◎							
27	「道徳の時間」を大切に、よりよい授業づくりを努めたり、指導方法の工夫や改善を図っている。	21%	61%	18%	0%		0%	◎							
28	いじめは「しない・させない・許さない」の姿勢で毅然とした指導を行っている。	39%	57%	4%	0%		0%	◎							
◆ 特別支援教育の充実						◆ 特別支援教育の充実									
29	「特別支援教育」に対する積極的な理解を図っている。	33%	56%	11%	0%		0%	◎	◎	○どの項目も伸長傾向にある。 ○差別や偏見を助言する言動は、看過することなく個別指導し、共生の心の伸長を図る。 ○それぞれの「輝く個性」に気づき、理解を深める指導や学習に具体化を図る。 ○就学指導委員会での担当者の発信を今以上に高める。 ○学習支援については、全教職員による最大限の支援に努める。					
30	一人一人を大切に、異なる個性を輝かせる仲間づくりに努めている。	30%	59%	11%	0%		0%	◎	◎						
31	障がいをもつ人々への理解を深め、「共に生きる」社会を築く資質を養う指導に努めている。	11%	78%	11%	0%		0%	◎	◎						
32	差別や偏見など、生徒たちに身の周りにある不合理や矛盾に気づく感性を養っている。	33%	56%	11%	0%		0%	◎	◎						
33	支援を要する生徒たちの情報を幅広く交換し、生徒理解したり研修する校内の支援体制ができています。	30%	59%	11%	0%		0%	◎	◎						
34	必要に応じて小学校や関係機関と連携し、生徒支援が効率的に進められるようにしている。	11%	78%	11%	0%		0%	◎	◎						
												22 生徒会は素晴らしい活動をしていると思うが、一般の生徒は、そのことをあまり知らないのでは。役員だけでなくもっと多くの生徒が興味を持ち、今以上に協力できるようになればと思います。 24 100%である。達成感や達成感を味わわせることは、生きる力を養うために非常に重要だと思う。昨年のC評価12%がむしろ異常である。 ・生徒に対して社会の一員としての道徳・規範を教えていくことは難しいとは思いますが、小中連携などしながら進めていくことは必要だと思います。また、PTAにも、生徒を指導していく上での協力をお願いしなければならないと思います。（親のモラルにも一因があることも事実ですから）			
												29-34にわたるC評価11%は、学校長の個別指導が必要だと思っています。			

◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進					分析と改善の方策					自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と提言
35	教育活動全般について、生徒や保護者、地域の願いによく応えている。	19%	59%	22%	0%		0%	◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進 ○〔39〕は好転、他は横ばい傾向。 ○小中連携については、相当程度に進捗してきた。今後も児童生徒のためになる、実効ある連携を進める姿勢を保ちたい。 ○オープンスクールは、広域活動に努めているが、学校行事以外は参加率は高くない。昨年度と同じ反省が残ったが、保護者や地域の学校理解を深める企画を加えたい。	◎	◎	38 保護者や地域の人と接する機会が多く持つことが良いのか、少ないのが良いのか、何も問題がなければ少なくとも良いと考える。	
36	教育効果を高めるために地域や外部の教育力の活用を図っている。	11%	59%	26%	4%		4%		○	○	40 赤中は立地的にもお年寄りには行きにくい。オープンスクールは、やはり行事がらみでないといけないと参加率は低くなります。	
37	保護者や地域に積極的に情報を提供し、連携に努めている。	15%	70%	15%	0%		0%		○	△	・地域行事の積極参加は、大変難しいと思いますが、各地域でどんな団体がどんな行事を開催し活動しているのか等についても理解を深めていただきたい。	
38	保護者や地域の人たちと接する機会を多くもっている。	11%	52%	37%	0%		0%		○	△	・子どもが学校にいない地域の人たちとの関係が希薄であり、積極的に（学校と）関係を持とうとする人も少ないと思われる。何か良い場があれば改善されると思います。	
39	教職員はPTA活動によく参加している。	15%	70%	11%	4%		4%		◎	◎		
40	オープンスクールは適切に計画・実施されている。	15%	56%	30%	0%		0%		◎	◎		
■ 学校・教職員					■ 学校・教職員					自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と提言
41	「授業が最大の生徒指導である」の視点に立ち、授業研究や校内研修への意識を高く保ち、実践への機運が高まっている。	11%	74%	15%	0%		0%	■ 学校・教職員 ○〔41〕は新項目 ○伸びた項目 〔46〕(A+B 65% 68% → 74%) 〔47〕(A+B 58% 60% → 88%) ○若手職員が増え、職員室のムードも明るくなった。何事も経験ではあるが、経験をさせながら指導と支援を惜しまない職員室にする。 ○校内研修への意識は高まっている。大切なことは一致と協力である。研修組織で企画を具体化し、一体感のある研修に努める。	◎	○	46 どんな事に対して危機意識が高く保たれていないのか分析が必要、安全に対する意識であれば問題と考える。	
42	各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	4%	70%	26%	0%		0%		◎	◎	・先生方の一体感は生徒に与える影響大だと思います。問題を共有して連携して取り組むことが大切だと思います。	
43	職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討・解決の場として有効に機能している。	11%	78%	11%	0%		0%		○	◎	・PDCA研修をたくさん受けたことがあるが、Cは他人に厳しくAは自分に甘くという結果ばかり。校長先生・教頭先生のリーダーシップにより、良いサイクルにしていきたいと願っています。	
44	教職員間の相互理解が十分に生まれ、管理職や同僚への「報告・連絡・相談」が十分にできている。	22%	67%	11%	0%		0%		○	◎	・先生がいろんな面で孤立せず一体となって指導にあたることは良いことだと思います。	
45	教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえる。	33%	56%	11%	0%		0%		○	◎		
46	様々な事に対する危機意識が高く保たれている。	11%	63%	22%	4%		4%		○	◎		
47	課題解決のための校内研修組織が機能し、学校課題に対する研修や取り組みが進んでいる。	7%	81%	11%	0%		0%		◎	◎		